

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23300314

研究課題名(和文) 内部質保証システムとしてのティーチング・ポートフォリオの継続的活用環境

研究課題名(英文) Sustainable use of the Teaching Portofolio as a system for internal quality assurance

研究代表者

栗田 佳代子(Kurita, Kayoko)

東京大学・大学総合教育研究センター・特任准教授

研究者番号：50415923

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,700,000円

研究成果の概要(和文)：教員の教育業績を多角的に評価する方法および教育改善の方法として認知されつつあるティーチング・ポートフォリオが形骸化せずに継続的かつ効果的に活用されるための支援プログラムの提案を行った。実際の成果として、作成ワークショップの支援システムの開発、ワークショップのスタンダードの提案、メンタリングのチェックシートの開発、作成開始時のポートフォリオチャートの開発などがあげられる。これらはすべて実際のワークショップにおける作成者、作成支援者および企画者からの直接的な意見をとりにいれ、その効果検証を行いながら開発された。

研究成果の概要(英文)：The teaching portfolio which is effective for an multi-dimensional evaluation and improvement of teaching, is gradually known to higher education community in Japan. In this study, we developed several systems and tools for sustainable and effective use of the teaching portfolio.

We proposed a web system for providing fundamental information, supporting the workshop of developing the teaching portfolio, a workshop standard for assuring the quality of the workshop. We also developed a workshop for revising the teaching portfolio and one for developing an academic portfolio, a standard for ensuring the quality of the workshop and a check sheet for effective mentoring in workshops and a portfolio chart for assisting the development of the teaching portfolio.

研究分野：高等教育開発

キーワード：ティーチング・ポートフォリオ 教育改善 教員評価

1. 研究開始当初の背景

(1) ティーチング・ポートフォリオとは

ティーチング・ポートフォリオ（以下、ポートフォリオ）とは「大学教員が自分の授業や指導において投じた教育努力の少なくとも一部を、目に見える形で自分および第三者に伝えるために効率的・効果的に記録を残そうとする教育業績ファイル」であり、教員の教育業績評価および教育改善の有効な手段として欧米では既に広く普及している仕組みである。研究開始当初は、利便性やアクセスビリティに優れた ICT 環境を利用した e-ポートフォリオの普及、学生の学習を高め成果を評価するための Learning Portfolio との連携、研究業績その他包括的に業績を扱う Academic Portfolio への拡張などが関連する課題として研究され、現場に浸透しつつあった。

(2) 日本におけるポートフォリオ

国内外の急速な状況変化により高等教育機関は競争的環境下にあった。それに伴い大学の説明責任は増し、そのための内部質保証システムの整備が求められていた。とりわけ「教育」に関する評価および向上は高等教育全体としての喫緊の課題であり、例えば、2008 年の中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」では、大学に期待される取り組みとして、教員の人事・採用にあたり教育面を一層重視することが求められていた。

ポートフォリオは(1)で述べた通り、教員に関する評価・教育改善の課題を解決する方法である。当時の状況変化は、ポートフォリオが受容される条件を整えるべき時期にあったといえよう。ポートフォリオは実は 1990 年代末にアメリカにおける教育業績評価および教育改善の方法として日本において紹介されていたが、当時の状況としては授業評価にようやく関心が向けられた時期であり、普及には至らなかった。それまでは教員養成学部の学生の学習ツールとしてなど用途が限られていた時代であった。

(3) ポートフォリオの可能性

研究代表者は 2007 年より、ポートフォリオに注目しその有効な導入方法について研究を行ってきた。例えば、日本に適応したワークショップの提案や、リソースの開発、情報共有のためのウェブサイト構築開始など具体的な提案を行っていた。そして、その成果を用いて支援を行い、実際に複数の高等教育機関への導入を成功に導いていた。研究開始当初は、導入をする機関が増加する途上であったが、導入に際しての支援体制をさらに整えることおよび導入後の継続性に関する研究および知見の蓄積が必要であった。ポートフォリオは時間的および労力的コストが高いため、正しい理解と活用のための組織体制がなければ導入の失敗あるいはその運用時の形骸化を招く。ポートフォリオの効果の発現と維持は、その体制の質にかかっており、

それらの研究および具体的な支援体制プログラム等の提案を含めた研究が待たれていた。

ポートフォリオは教員の業績を公正に評価し、また、教育能力の向上に資する方法として機能しうる。しかしながら、大学評価という観点から考えるとき、どのような評価基準をもってすればそのように判断可能となるかという問いに答えねばならなかった。

以上が研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

日本において教員の教育業績を多角的に評価する方法および教育改善の方法としてティーチング・ポートフォリオ(以下、ポートフォリオ)が認知され普及を始めた当時、ポートフォリオが形骸化せず継続的かつ効果的に活用されるために具備すべき条件の同定と、それを実現するための支援プログラムの提案を行う。さらに、ポートフォリオを内部質保証システムとして判断するための要素および評価基準についても検討を行い提案する。そして、ポートフォリオの利用が高等教育の質の向上に資することを最終目的とする。

具体的には次の 3 点を明らかにすることを目的とする。

- ❖ ポートフォリオ導入支援のためのプログラムの開発と公開：ポートフォリオ作成者、メンター、導入機関各々に向けた支援プログラムの開発
 - 作成者の自己省察を促進するポートフォリオ作成支援プログラム
 - 経験の浅いメンターに必要な知識を補完するデータベース
 - ポートフォリオ導入機関に必要なリソース整備と導入事例の蓄積
- ❖ ポートフォリオの継続的活用に必要な要因の同定と支援プログラムの開発
 - 継続的活用に必要な個人的要因、組織的要因、社会的要因の同定
 - 更新ワークショップの開発と提案
- ❖ 内部質保証システムとしてポートフォリオの位置づけの確立
 - ポートフォリオの評価方法および評価結果を機関として利用する方法の提案
 - 内部質保証システムとして判断するための評価基準の提案

3. 研究の方法

研究期間の研究方法としては、次のような方法・方針とした。まず、概要を示し、そして各年度における研究実施方法を示す。

平成 23 年度については、作成者・メンター・機関の支援プログラムの開発と公開、および継続的活用を支援するためのプログラムつまり、ポートフォリオの更新ワークショップの開発の 2 つを軸とした。そして、平成 24 年度以降は本研究の支援プログラムの公開も開始され、ポートフォリオの普及が進ん

でいると期待される。そこで、平成 24 年度以降は、開発中の機関支援プログラムおよび更新ワークショップの公開に続き、新知識の提案のための研究を実施する。具体的には導入機関におけるポートフォリオが活用の実態についての事例の収集や、質問紙調査、インタビュー調査を実施し多様なデータを検討することで、ポートフォリオの効果的継続のための要因および内部質保証システムとしての判断基準の作成に関する知見を提供する。全体として、24 年度はプログラム開発、25、26 年度は新知識の提案のための研究を実行する。

【平成 23 年度】

(1) 作成者・メンター・機関の支援プログラムの開発と公開

ティーチング・ポートフォリオは普及の途上にあるため、ウェブサイトによる多角的な支援プログラムの開発と公開を優先し、開発過程においても導入支援を通じてポートフォリオの正しい普及に貢献する。ポートフォリオ作成者には自己省察を促進させつつ効率性を高めたポートフォリオ作成支援プログラム、メンターにはメンタリングのための知識的支援を行うポートフォリオ・データベース、機関には包括的な導入パッケージ・プログラムという三者に対する支援プログラムが開発の中心である。機関に協力を要請して作成ワークショップに支援プログラムのプロトタイプを組み込み、フィードバックを得て改変を重ねる。ポートフォリオに関するハブ的役割を担うウェブサイトは既に稼働を始めており、本年度末にはこのウェブサイト上にて作成者およびメンター向けプログラムの公開を行う。

(2) ポートフォリオの継続的活用のための支援プログラム（更新ワークショップ）のプロトタイプ開発

上記プロジェクトと平行して、更新ワークショップのプロトタイプの開発を行う。ポートフォリオの作成者は現在既に国内で 100 名を越えつつあるが、「更新の難しさ」という問題が浮上している。ポートフォリオの更新は、継続的な教育改善の有効な方略として知られているが、実際には独力で行うのは難しくプログラムとしての整備が必要である。そこで、ポートフォリオの継続的活用を目指した更新ワークショップの開発を行う。方法としては更新ワークショップのプロトタイプ案を作成し、(1)ポートフォリオ作成経験者である研究代表者および研究分担者がこのプログラムを施行、(2)ポートフォリオ導入機関にプロトタイプ案を提示して意見聴取を行う。このプロセスが順調に進めばさらに、プロトタイプとして確定し、実際にワークショップを施行して試行と評価を行う。

【平成 24 年度】

(1) 機関のポートフォリオ導入のための支援プログラムの開発と公開

平成 23 年度に収集した情報をもとに、導入

予定機関のための支援プログラムの開発を進める。具体的には、導入プロセスに関するリソースと事例のアーカイブ、そして、導入に関するコンサルテーションが支援プログラムの柱となる。これらをウェブコンテンツとして開発し、公開する。また、平成 23 年度に既に公開済みの作成者およびメンターのための支援プログラムについても継続的に運用しつつ、フィードバックに基づいた改善を行う。

(2) 更新ワークショップの公開

平成 23 年度に作成されたプロトタイプを試行し、ワークショップの正式な提案を実施する。この頃にはポートフォリオ作成者の人数も増え、更新ワークショップに関心を示す参加者が増加することが期待される。ポートフォリオ導入済みの機関に実施依頼をする他、研究代表者の所属機関における実施も計画する。

【平成 25/26 年度】

(1) 活用に関する事例収集と要因の分析

ポートフォリオの導入についてはこれまでの研究で一定の成果を得たといえる。そして、次に取り組むべき課題は、ポートフォリオが有効性を保ったまま継続することについてである。導入済機関への訪問調査、作成者への質問紙調査やインタビューなど多彩なデータ収集方法によって、(a)個人および機関の活用の実態、(b)活用の阻害要因、(c)活用の促進要因、(d)活用のための支援策について調査を行い、これらについて明らかにする。調査対象はポートフォリオを作成して 3 年を経た個人および組織であり、ポートフォリオに関する初のフォローアップ調査研究といえる。

(2) ポートフォリオ質保証システムたる要件および判断基準の提案

本テーマは、ポートフォリオが高等教育機関の質保証のための方法として機能しうるかという課題を取り扱っている。このことから、ポートフォリオの客観性の保持と、ポートフォリオを教育業績評価として位置づける際に必要な要件、また、このポートフォリオシステムが内部質保証として認められるために備えるべき要件および判断基準について検討し、提案を行う。

そのための方法としては、海外における質保証機関がポートフォリオシステムを如何に評価しているかについての事例の収集と文献調査、日本におけるポートフォリオ利用機関における内部質保証システムとしての有効性に関するインタビュー調査および実態調査を行う。

4. 研究成果

下記に本研究において達成された成果を整理する。

(1) **ウェブサイトの構築** ポートフォリオの作成者・作成支援を行うメンター・実施する機関の支援プログラムを提供するウ

ウェブサイトの開発と公開を行った。本サイトでは、総合的な情報提供の他、導入機関による事例の紹介、ワークショップの支援環境を実装した。

(<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>)

- (2) **更新ワークショップの開発と実施** ティーチング・ポートフォリオの継続的な利用環境の整備に資するため更新ワークショップを開発し、提案を行った。1日かつ相互メンタリングによる更新の枠組みは、ティーチング・ポートフォリオを無理なく更新する機会の提供となった。
- (3) **アカデミック・ポートフォリオの開発と実施** ティーチング・ポートフォリオの拡張版であるアカデミック・ポートフォリオのワークショップを開発し、実際にワークショップを行った。ティーチング・ポートフォリオを同じ構成をとることで、ティーチング・ポートフォリオのワークショップと同様に開催できることから、開催コストが下がること、また、ティーチング・ポートフォリオを作成してからアカデミック・ポートフォリオを作成するという二段階の作成方法を提示することで、作成を実現した。
- (4) **ワークショップ・スタンダードの作成と公開** ティーチング・ポートフォリオの質保証を目指したワークショップについての7つの基準及び4つの努力基準から構成されるワークショップ・スタンダードを開発した。
- (5) **作成後のフォローアップ調査の実施** ティーチング・ポートフォリオ作成の影響について調べるために、フォローアップ調査を行った。結果として作成後4ヶ月から3年ほど後においても、ティーチング・ポートフォリオ作成の満足度は高く、意識や行動に影響を与えることがわかった。
- (6) **アカデミック・ポートフォリオ・チャートの開発** アカデミック・ポートフォリオの作成を容易にするチャートの開発を行った。この提案により、作成時間の短縮や作成プロセスの質保証がしやすくなった。
- (7) **メンタリングの質保証の仕組みの提案** ワorkshop中に行われるメンタリングの質保証を目的としたメンタリングチェックシートの開発を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 14 件)

- ① 加藤由香里 (2014) 日本語教師の実践交流コミュニティによる専門的成長の支援, 教育メディア研究, 第20号, 第2号 pp. 35-44
- ② Yukari Kato (2014) Professional Development: Fostering Integrative Knowledge and Pedagogy of Japanese Language Teachers through e-Portfolio, International Journal for Educational

Media and Technology, vol.8, pp.24-40

- ③ Kurita, K. (2013) Structured strategy for implementation of the teaching portfolio concept in Japan, International Journal for Academic Development, International Journal for Academic Development, 18(1), 74-88. (DOI :10.1080/1360144X.2011.625622)
- ④ 吉田壘, 栗田佳代子: 大学院生版アカデミック・ポートフォリオの開発; 日本教育工学会論文誌, 39(1), 2015 (印刷中)
- ⑤ 東田卓・金田忠裕・中谷敬子・栗田佳代子(印刷中)「2013年アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ報告」大阪府立大学工業高等専門学校研究紀要
- ⑥ 金田忠裕・北野健一・東田卓・中谷敬子・栗田佳代子・溝手朝子・保福一郎・清水栄子・吉田香奈・加藤由香里 (2013) 「2012年度アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ報告」大阪府立大学工業高等専門学校研究紀要, 47, 43-48

〔学会発表〕(計 35 件)

- ① Kurita, K (2014) Workshop Standards for Quality Assurance the Teaching Portfolio, 35th Annual POD Conference, Professional and Organizational Development Network in Higher Education, p. 64, 2014. 11. 5-9, Dallas, TX.
- ② Kurita, K. & Yoshida, L. (2014) Implementation and evaluation of preparing future faculty program at the University of Tokyo in Japan, ICED2014, 2014.6.16, Stockholm, Sweden
- ③ Yoshida, L. & Kurita, K. (2014) Development and evaluation of graduate student academic portfolio, ICED2014, 2014.6.16, Stockholm, Sweden
- ④ 吉田壘・栗田佳代子 (2014) ポートフォリオ作成におけるメンタリングの質保証, 大学教育学会第36回大会, 2014.6.1名古屋大学 144-145.
- ⑤ 栗田佳代子・北野健一・松本高志・竹元仁美・皆本晃弥・吉田香奈・吉田壘 (2014) ティーチング・ポートフォリオの効果検証, 第23回京都大学教育研究フォーラム, 2014.3.19, 京都大学
- ⑥ 栗田佳代子・尾澤重知・北野健一・榊原暢久・秦敬治・竹元仁美・松本高志・皆本晃弥 (2014) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップのための基準, 第23回京都大学教育研究フォーラム, 2014.3.19, 京都大学
- ⑦ 中山晃, Heffeman Neil, 清水英子, 栗田佳代子 (2013) Teaching Portfolios: for revisiting one's life story as an English teacher and the process for self-actualization, 日本教育心理学会第

55 回総会自主企画シンポジウム 8.17
法政大学

- ⑧ Matsumoto, T., Shimizu, E. & Kurita, K. (2013) Development of Teaching Portfolio for National College of Technology in Japan, 20th Georgia Conference on College & University Teaching, 2.15-16, Kennesaw, GA.
- ⑨ 栗田佳代子, 秦敬治, 竹元仁美, 皆本晃弥, 山内一祥, 東田卓, 金田忠裕, 本田知巳 (2013) 大学教員のポートフォリオのこれから, 第 19 回京都大学教育研究フォーラム, 3/14-15, 京都大学
- ⑩ 金田忠裕・中谷敬子・北野健一・栗田佳代子 (2012) アカデミック・ポートフォリオ作成段階における AP チャート作成の意義, 第 18 回日本高専学会 8.26 近畿大学工業高等専門学校
- ⑪ Sato, H. & Kurita, K. (2012) Process-Based Approach for Educational Development in Japan, ICED2012 International Consortium for Educational Development, Bangkok Thailand, Oral Presentation (July 22-25, 2012).

〔図書〕(計 1 件)

栗田佳代子 (2014) 学びを实らせる教育. 大学評価・学位授与機構 (編著) 『大学評価文化の定着：日本の大学は世界で通用するのか?』ぎょうせい pp.27-40 (第 1 部第 2 章)

〔その他〕

・ウェブサイトの構築

<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>

・報告書

- ① 栗田佳代子(編) (2014) 「ティーチング・ポートフォリオの定着・普及に向けた取り組み—効果検証・質保証・広がり」大学評価・学位授与機構
- ② 栗田佳代子(編) (2012) 「ティーチング・ポートフォリオの導入と次のステップ — 導入とその先の課題, および更新ワークショップの提案 —」大学評価・学位授与機構

・招待講演 (計 34 件)

- ① 栗田佳代子 (2014) 「ティーチング・ポートフォリオの意義と作成プロセス」玉川大学 5.27
- ② 栗田佳代子 (2012) 「高等教育の質の向上に資するためのティーチング・ポートフォリオの在り方」TPGP フォーラム 「ポートフォリオの活用による高等教育の活性化」基調講演 大阪府立大学 8.31
- ③ 栗田佳代子 (2012) 「高等教育の質の向上に資するためのティーチング・ポートフォリオの在り方」TPGP フォーラム 「ポートフォリオの活用による高等教育の活性化」基調講演 大阪府立大学

8.31

・作成ワークショップの実施

- ティーチング・ポートフォリオおよびアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ 18 件
- 大学院生版アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ 4 件
- ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ 2 件

6. 研究組織

(1)研究代表者

栗田佳代子 (KURITA KAYOKO)
東京大学・大学総合教育研究センター・
特任准教授
研究者番号：5 0 4 1 5 9 2 3

(2)研究分担者

尾澤重知 (OZAWA SHIGETO)
早稲田大学・人間科学学術院・准教授
研究者番号：5 0 3 8 6 6 6 1

加藤由香里 (KATO YUKARI)

名古屋外国語大学・日本語教育センター・
教授
研究者番号：9 0 3 7 6 8 4 8

(3)連携研究者

該当なし